# 備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

（平成21年度事業）

## 事業の概要

| 事業開始年度 | | | 平成１７年度 |
|---|---|---|---|
| 総合計画 | 大項目 | 基本目標 | 02 健康でやさしさあふれるまちづくり |
| | 中項目 | 基本施策 | 01 やさしさあふれるまちづくり |
| | 小項目 | 施策 | 07 保険給付（国保） |
| 事務事業名 | | | 04 財政調整基金事業 |

| 根拠法令・例規等 | 国民健康保険法 |
|---|---|
| 問合先 担当課（室） | 保健課 |
| 問合先 職・氏名 | 保険医療係長　大峠一吉 |
| 問合先 電話 | 64-1819 |
| このシート作成に要した時間 | 0.5 時間 |

## 事業の目的

| | |
|---|---|
| 対象（誰・何に対して） | 国民健康保険に加入している被保険者 |
| 目的（何のために） | 国民健康保険財政の健全な運営に資するため財政調整基金を造成する。 |
| 事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか） | 国民健康保険財政の健全運営 |

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

## 事業の実績

目的を達成するため実施した事業

| 細事業名 | 事業の説明 | 優先度 |
|---|---|---|
| 基金積立事業 | 国民健康保険財政の健全な運営に資するため、財政調整基金を設置、基金の利息を積み立てている。 | ◎ |

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

| 事業費等 | | 単位 | 平成19年度実績 | 平成20年度実績 | 平成21年度実績 |
|---|---|---|---|---|---|
| 決算額 事業費 | 直接事業費 | 千円 | 1,440 | 1,792 | 1,001 |
| | 必要人員 人件費 | 千円 | 0.00人 0 | 0.00人 0 | 0.00人 0 |
| | 事業費計 | 千円 | 1,440 | 1,792 | 1,001 |
| 財源 | 国県支出金 | 千円 | | | |
| | 受益者負担 | 千円 | | | |
| | 繰入金 | 千円 | | | |
| | 市債 | 千円 | | | |
| | その他（財産運用収入） | 千円 | 1,440 | 1,792 | 1,001 |
| | 一般財源 | 千円 | | | |
| 受益者負担比率 | | % | − | − | − |

| 結果指標名 | 単位 | 平成19年度実績 | 平成20年度実績 | 平成21年度実績 |
|---|---|---|---|---|
| 国民健康保険財政調整基金積立金 | 説明 | 積立額 | | |
| 結果指標量 | 円 | 1,439,562 | 1,791,768 | 1,001,353 |
| 対前年比 | % | − | 124.5% | 55.9% |
| 活動コスト | 円 | 1,439,562 | 1,791,768 | 1,001,353 |
| 単位当たりコスト | 円 | 1 | 1 | 1 |

## 事業の成果

| 成果指標名 | 年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度目標値 |
|---|---|---|---|---|---|
| 被保険者一人当たり基金保有額 | 目標値（A） | 35000 | 35000 | 35000 | 35000 |
| | 実績値（B） | 34149 | 51555 | 51654 | 到達目標値 |
| | 達成率（B/A） | 97.57% | 147.30% | 147.58% | 35000 |

**成果指標設定の考え方・式や説明**

基金保有額／被保険者数
適正な財政運営のため基金保有額を指標としている。

## 事務事業の評価

**妥当性の評価**

市の関与の妥当性必要性

- ☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：A

**効率性の評価**

コスト手段

- ☑ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☐ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：A

**有効性の評価**

目的達成度市民参画度

- ☐ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☑ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：A

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

## 進行年度（H22年度）の改革改善内容

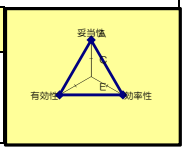
| | 拡充 | 現状継続 | 見直し | 縮小 | 整理統合 | 休止 | 廃止・完了 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 状況 | | ○ | | | | | |

説明：基金取崩しを最小限にして、安定した国保財政の運営に努める。

## 総合評価

被保険者は医療制度改革の影響と人口の減少に伴い減少しており、被保険者一人当たりの基金保有額は充足している。また、過去3箇年の保険給付費の平均年額の5%以上に相当する額を積み立てることとされているが、平成21年度末で15.2%の積立額で充足している。しかし、国民健康保険財政は医療費の増加により厳しい運営が予測されていることから今後も継続した積立を行い、安定した財政運営を行っていく必要がある。

評価区分 <A～E>：A




## 平成23年度の方向性 及び 取組目標

| | 拡充 | 現状継続 | 見直し | 縮小 | 整理統合 | 休止 | 廃止・完了 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 方向性 | | ○ | | | | | |

取組目標：基金取崩しを最小限にして、安定した国保財政の運営に努める。